学校通信

平成３０年度　第３号
平成３０年　６月　４日
練馬区立開進第三小学校
校　長　岡　部　良　美

『人間関係づくりは、言葉を交わすことから』

校長　岡部　良美

子供たちは新しい学年・学級の中で、新しい自分の役割をとおして、多くの教職員から褒められ、期待と夢をふくらませて、元気よく活動をしています。入学してから６年生の温かいお世話と元気なあいさつで学校生活の１日がスタートしていた１年生が、今では６年生が遠くで見守っているところまで成長しました。６年生が武石移動教室に出発するに先立ち、５月２３日に１年生が６年生に、安全と晴天への願いを込めて作ったてるてる坊主をプレゼントしました。温かいつながりを実感する瞬間でした。その願いが伝わり、６年武石移動教室は大成功でした。

さて、今の子供たちは、生まれた時からテレビやコンピュータ、携帯端末などによるたくさんの情報の中で育ってきています。情報手段には多くの利点とともに問題点もあります。テレビやコンピュータなどの情報は一方的であり、いつも見る側が受け入れるだけの状況をつくり出します。読書の場合は、読むことによりその場面を自分なりにイメージして頭の中に描くのですが、テレビやコンピュータなどはその必要がなく、最初から与えられています。これは子供の想像力の弱さや乏しさにつながります。みんなと一緒に過ごすよりも、早く家に帰り一人で遊べる世界に入ろうとする傾向があります。会話のないままに過ごしている状況はありませんか。

人と言葉を交わせないということは、表現力が乏しい、心が開けないことにつながると思います。一方的な情報が氾濫して、会話の少ない生活の中で子供たちは、言葉を交わす習慣や技能を身に付ける機会を失い、言葉のもつ意味や役割を十分に理解できなくなっているのではないしょうか。まねはできても、自分の言葉で考えを表現したり、自分の言葉が相手にどう受け止められるかまで考えたりできる子供たちが減ってきています。表現力の弱さも人と言葉を交わせないことが背景にあるのではないでしょうか。人と言葉を交わせないということは、人に対する信頼がないということと関係します。「こんなことを言ったら笑われるのでは。」、「こんなことを言ったら叱られるのでは。」などと考えて、自分のことを言えない子供も多いのです。他人が信頼できないということは、自分も信頼できないことにつながりますし、言葉を信頼しないということでもあるのです。当然、自分の世界に閉じこもることが多くなりがちです。

子供たちが学校や社会の中で明るくたくましく成長していくためには、温かい人間関係が必要ですが、そのための最も基本的な手段は、言葉と言葉を交わす会話にあります。言葉を交わすことが苦手で人間関係をつくることがうまくできない子供たちにもっと声をかけ、会話をとおして表現力を養ったり、自分の心を開いたりすることの大切さを教えていくことが必要と考えます。また、相手に自分の思いをきちんと伝える方法を教えることも必要であると思います。

今後とも、保護者や地域の皆様による子供たちへの温かい言葉かけをお願いいたします。